大崎市のまちづくり、あなたはどう思いますか。

**大崎市総合計画 市民意識調査の結果報告**

平成30年7月、住民基本台帳から無作為抽出された市民5,000人を対象に、市民意識調査を行いました。主な調査結果を紹介します。

政策課政策企画担当　23-2129

　市では、総合計画に掲げる将来像「宝の都（くに）・大崎～ずっとおおさき・いつかはおおさき～」の実現に向けて、まちづくりを進めています。

　市民意識調査は、市民の皆さんが市政に対してどのような意見を持っているか、今後の市政運営において何を重要と考えているのかなどを把握し、施策への反映を図る事を目的に実施しています。

　今回の意識調査結果から、主だったものを紹介します。詳細は、市ウェブサイト（http://www.city.osaki.miyagi.jp）に掲載しています。

　調査にご協力いただいた市民の皆さん、ありがとうございました。

■調査の概要

対象

　満15歳以上の市民5,000人

調査期間

　平成30年07月01日から平成30年07月27日まで

抽出方法

　住民基本台帳から無作為抽出

調査方法

　郵送による調査表の配布・回収

回収結果

　調査票配布数5,000件のうち

　有効回収数1,805件

　（有効回収率36.1％）

■回答者の性別

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 性別 | 人数 | 構成比 |
| 男性 | 784人 | 43.4％ |
| 女性 | 1,009人 | 55.9％ |
| 無回答 | 12人 | 0.7％ |
| 合計 | 1,805人 | 100.0％ |

■回答者の年齢

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年齢別 | 人数 | 構成比 |
| 10歳代 | 71人 | 3.9％ |
| 20歳代 | 102人 | 5.7％ |
| 30歳代 | 229人 | 12.7％ |
| 40歳代 | 258人 | 14.3％ |
| 50歳代 | 299人 | 16.6％ |
| 60歳代 | 491人 | 27.2％ |
| 70歳代以上 | 330人 | 18.3％ |
| 無回答 | 025人 | 1.4％ |
| 合計 | 1,805人 | 100.0％ |

**大崎市の暮らしやすさはどうですか？**

暮らしやすい・どちらかといえば暮らしやすい…58.7％

暮らしにくい・どちらかといえば暮らしにくい…18.2％

▲大崎市の暮らしやすさについての質問では、「どちらかといえば暮らしやすい」と答えた人が42.6％と最も多く、次いで「どちらともいえない」が22.7％、「暮らしやすい」が16.1％の順となりました。

　「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」をあわせた暮らしやすさを感じている人は、半数を超える結果となっています。

**施策に対する市民満足度の推移**

　各施策に対する回答を、満足度（満足100、やや満足75、やや不満25、不満0）として点数化し、全回答者の平均値を算出しています。満足度は100に近いほど高く、0に近いほど低くなります。

　その結果、最も満足度が高い分野は「各種検診や健康相談など健康づくりの推進」の66.03でした。続いて、「消防・救急体制の充実」が60.99となりました。

　また、満足度が低かったものは、「新しい産業の創出への支援・起業の支援」が28.96、「雇用の拡大と職業能力開発など、就業支援」が27.80となりました。

　全体として、前回平成27年の市民意識調査の結果と比較すると、市民の満足度が低下しています。

　そのような中で、特に満足度が高くなった項目は「農業の振興や農村地域の基盤整備」で7.58増加、「森林整備と林業の活性化」で3.54増加、「新しい産業の創出への支援・起業の支援」で3.11増加となりました。

　全項目の満足度の結果と、前回の意識調査の比較は以下のとおりです。

　「大崎市に今後も住み続けたい」と考える市民の割合は、人口減少や少子高齢化が進展している現在、重要なデータとなります。今回の調査では、約53・8％の市民が「ずっと今いる地域で住みたい」と答えました。

　また、市政への関心、市民活動への参加や、大崎市がどんなまちになってほしいか、についての質問の結果は次のとおりです。

**大崎市に今後も住み続けたいと思いますか？**

ずっと今いる地域で住みたい…53.8％

市内他地域に住みたい…3.3％

どちらともいえない…30.3％

住み続けたいが転出しなければならない…3.3％

転出したい…8.5％

無回答…0.8％

**大崎市がどんなまちになってほしいと思いますか？(複数回答3つまで)**

▲「社会福祉・高齢福祉・障がい福祉が充実したまち」が29.6％と最も多く、次いで「医療が充実したまち」が29.5％、「公共交通が利用しやすく快適に暮らせるまち」が29.1％の順となりました。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 人数 | 構成比 |
| 社会福祉・高齢福祉・障がい福祉が充実したまち | 535人 | 29.6％ |
| 医療が充実したまち | 533人 | 29.5％ |
| 公共交通が利用しやすく快適に暮らせるまち | 526人 | 29.1％ |
| 災害への備えが充実したまち | 421人 | 23.3％ |
| 子育て支援が充実したまち | 405人 | 22.4％ |
| 就労・雇用が充実したまち | 398人 | 22.0％ |
| 道路環境が整備されたまち | 295人 | 16.3％ |
| 防犯や交通等の安全性が高いまち | 257人 | 14.2％ |
| 自然が豊かで調和のとれたまち | 228人 | 12.6％ |
| 教育環境が充実したまち | 218人 | 12.1％ |
| 観光が盛んなまち | 208人 | 11.5％ |
| 生涯学習やスポーツが盛んなまち | 173人 | 9.6％ |
| 商工業が盛んなまち | 145人 | 8.0％ |
| 農林水産業が盛んなまち | 142人 | 7.9％ |
| 健康づくりをすすめるまち | 135人 | 7.5％ |
| 環境にやさしいまち | 134人 | 7.4％ |
| 文化や歴史を大切にするまち | 116人 | 6.4％ |
| 行政改革をすすめるまち | 109人 | 6.0％ |
| 上下水道などの水環境が整ったまち | 94人 | 5.2％ |
| 市民協働が盛んなまち | 63人 | 3.5％ |
| 国内・国際交流が盛んなまち | 47人 | 2.6％ |
| 男女共同参画をすすめるまち | 32人 | 1.8％ |
| その他 | 28人 | 1.6％ |
| 無回答 | 11人 | 0.6％ |

**大崎市の市政に関心はありますか？**

▲「少しは関心がある」が50.0％で最も多く、次いで「あまり関心がない」が19.7％、「とても関心がある」が16.6％の順となりました。

**地域コミュニティ活動やボランティア活動などの市民活動に参加したことがありますか？**

▲「参加したことがない」が44.3％で最も多く、次いで「過去に参加したことがある」が29.1％、「現在参加している」が26.1％の順となりました。

**大崎市に対する総合的な満足度について評価してください。**

▲大崎市に対する総合的な満足度についての質問では、「満足」と「やや満足」をあわせた満足志向は44.9％、「不満」と「やや不満」をあわせた不満志向は41.0％で、満足志向のほうが高くなりました。

　平成27年度の市民意識調査結果と比べると、満足志向は1.2％減少、不満志向は0.9％増加する結果となりました。

今回の調査では、平成30年4月に認定証が授与された世界農業遺産「大崎耕土」について、３項目の質問を設けました。

　世界農業遺産の認知度は、65.0％の市民が「知っている」と回答。「資源として未来に残したいもの」と「参加したい保全活動」については以下のとおりとなりました。

**『大崎耕土』が世界農業遺産に認定されたことを知っていますか？**

知っている………65.0％

知らなかった……33.8％

無回答………………1.2％

**世界農業遺産の保全として、どのような活動に参加したいと思いますか？（複数回答3つまで）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 人数 | 構成比 |
| 積極的な地場産農産物の購入 | 639人 | 35.4％ |
| 伝統的な食文化の普及啓発活動 | 421人 | 23.3％ |
| 農村環境の美化活動（植栽など） | 418人 | 23.2％ |
| 屋敷林「居久根」、ため池、用水路などの保全 | 334人 | 18.5％ |
| 田んぼの生きもの調査などのモニタリング調査 | 273人 | 15.1％ |
| 保全活動への寄附 | 87人 | 4.8％ |
| 農業遺産のボランティアガイド | 70人 | 3.9％ |
| 参加したいと思わない | 575人 | 31.9％ |
| その他 | 57人 | 3.2％ |
| 無回答 | 57人 | 3.2％ |

**世界農業遺産の資源として未来に残したいものは何ですか？（複数回答3つまで）**

伝統的な食文化（もち料理、発酵食など）858人（47.5％）

多様な生きものが暮らす水田地帯831人（46.0％）

水管理施設（用水路、隧道・潜穴など）669人（37.1％）

屋敷林「居久根」566人（31.4％）

▲「伝統的な食文化」が47.5％、「多様な生きものが暮らす水田地帯」が46.0％、「水管理施設」が37.1％、「屋敷林『居久根』」が31.40％、「農業にまつわる民俗芸能」が28.6％の順となりました。（写真提供：大崎地域世界農業遺産推進協議会）